後円部埴輪列

後円部墳頂の埴輪列は普通円筒埴輪のほか安芸では珍しい楕円筒埴輪など数種類で構成され、埴輪の並びも変則的です。この様な並びを持つ事例は他に知られていません。

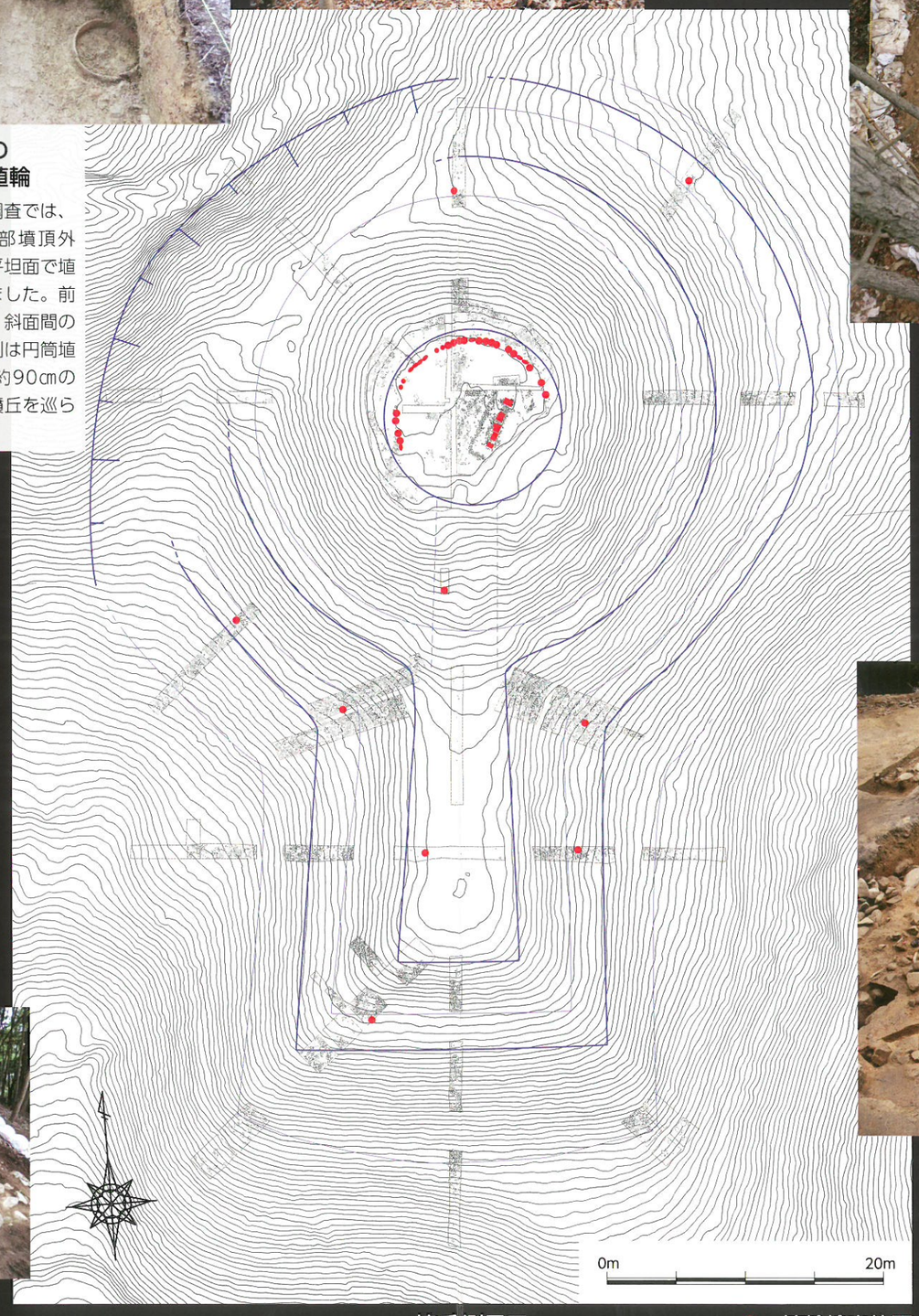
後円部北端の葺石と円筒埴輪

甲立古墳の調査では、後円部・前方部墳頂外縁、斜面間の平坦面で埴輪列を検出しました。前方部墳頂外縁、斜面間の平坦面の埴輪列は円筒埴輪を芯々距離約90㎝の間隔で並べ、墳丘を巡らせていました。

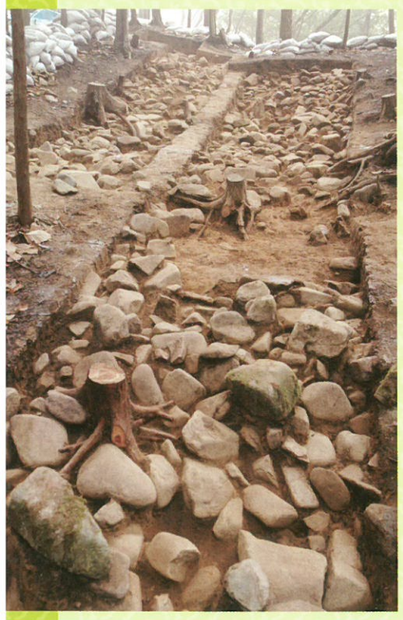
後円部遠景

後円部墳頂　後円部を飾る埴輪群

甲立古墳の後円部墳頂では注目すべき発見が相次ぎました。中央には墳丘の主軸方向と平行する墓坑掘方があり、内部は人頭大の角礫でたされていました。南東側では原位置を保った５基の家形埴輪を伴った石敷区画が見つかりました。外縁部には数種類の埴輪で構成された埴輪列があり、埴輪列外周と墳丘斜面上端との間には敷石帯がありました。古墳が築かれてから1500年以上が経過しているため、後世に盗掘などを受けて表面が破壊されてしまうことが多く、甲立古墳の様に埴輪の配列や外表施設が良好に保存されることは稀です。



墳丘測量図　●…埴輪検出位置



西くびれ部の葺石

墳丘斜面全面で葺石を検出しました。葺石の施工は、円礫を多用して斜面に対して石材を突き刺すように葺かれたり、角礫を敷き詰めるように葺かれたりと、いくつかのパターンがあり、葺石の施工に複数のグループが携わったと考えられます。いずれの斜面の葺石も隙間なく精緻に葺かれており、高度な葺石施工技術がみられます。

前方部の葺石

前方部の葺石

石敷区画　家形埴輪祭祀の痕跡

甲立古墳の後円部墳頂で検出した石敷区画は外縁を円礫で区画し中央に５個の家形埴輪を一列に並べていた。家形埴輪の周囲は小円礫が敷き詰められ祭壇状を呈していました。並べられた５基の家形埴輪は長・短辺を交互に入れ替え配置されており、築造時に立て並べたままの状態で見つかりました。このように配置された埴輪が原位置をとどめた状態で検出されることは非常に稀で、今後の古墳研究に大変有益な事例となりました。